

○ 本校の概要

児童数425人、学級数17(通常の学級12、特別支援学級5)、教職員47名から成っている。開校84周年を迎え、地域の中心として愛されている。児童は、明るく、元気よく学校生活を送っている。自分で考え、自分の言葉で表現することが苦手な児童が多い。⇒本校の重点課題として取り組んでいく。教員は「分かる・できる」授業づくりに向けて、ICT機器の活用、特にタブレット端末を活用し、児童の意欲関心を引き出す授業改善に取り組んでいる。生活指導では「相手の気持ちを考える」ことを重点に取り組んでいる。本年度はまず「挨拶」をしっかりできる児童の育成に取り組んでいる。保護者・地域は協力的であり、「学びの場」としての地域教材化できる。「地域を見つめ 地域に学び 地域に還す」地域学習を目指していく。特別支援学級(四組)は33名であり、個別最適化を目指した教育活動に取り組んでいる。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

Table with columns: 大項目, 目標, 取組内容, 取組指標, 取組評価, 目標に対する成果指標, 成果評価, これまでの取組今後の改善策, 評価人数, 学校関係者記入欄 (コメント). Rows include: プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成, プラン2 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます, プラン3 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への豊かな心を育みます, プラン4 スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします, プラン5 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくり, プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。